

インカレディベート 参加報告

第19期生 喜多村 留衣

◆インカレディベートとは？

他大学のゼミと、ディベートを繰り広げる場が、インカレディベートです。去年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、本イベントは開催されませんでした。今年度は、様々な方の協力により、ZOOMにて、2年ぶりの開催となりました。今年度は、小野ゼミ、関西大学の千葉ゼミ、中央大学の久保ゼミ、東洋大学の竹内ゼミという、4つのゼミが参加する大会となりました。皆さんと対面でお会いできなかったことが、残念で仕方がありません。

◆活動後記

「勝ちたいです」。我々第19期が小野先生に宣言したこの言葉は、小野ゼミ入会后、我々の前に立ちほだかった最初の山場であるインカレディベートに向けた活動の根幹にありました。私達は、「勝つ」ために、魅力的なディベートとは何か、また、勝ち切るためのディベートは何かについて、思いつく限り全ての準備をしてきました。しかし、今年度の春学期の活動は、完全オンライン形式であったため、連日、何時間もZOOMに接続していると、オンライン特有のトラブルに巻き込まれる同期が多かったです。パソコンがバグリ再起動の連発、画面が真っ暗のまま使えなくなってしまった同期。長時間座り続けたために、腰に異常をきたした同期。午前4時頃、同期との議論中に堂々と寝落ちする喜多村。そのような、数々の「エグゼミ」エピソードの中でも、最も印象深い出来事は、本番直前の2週間、14時45分に始まる本ゼミの終了時刻が0時を超えたことです。「これがエグゼミか…。」と、改めて小野ゼミの各イベントにかける本気度、先輩方のアツさ、そして、同期の粘り強さを実感しながら、日々膨大な時間を準備に費やしました。



画面越しに久保ゼミの皆様にガン飛ばす神谷

今年度は、我々19期8人で1チームとしたため、出番は第2試合のみ、対戦相手は久保ゼミでした。テーマは、「値引とクーポン、小売店舗が採用すべきセールス・プロモーションはどちらか?」。シンプルで分かりやすいですが、それゆえに奥が深く、議論が深まるテーマでした。我々19期は、小野ゼミ生として珍しく、控えめな性格の人が多いのですが、この日は全員が殻を破り、堂々と、かつ、積極的なディベートを

展開したことが印象的でした。久保ゼミの冷静かつ鋭い指摘に我々も戸惑いましたが、前日ギリギリまで行った準備が功を奏し、オーディエンスを巻き込みながらディベートを展開することができました。特に、先輩方から心配されていたフリーディベートの時間では、小野ゼミが攻撃の手を止めることなく、15分間話し続けることができました。ディベートに参加している小野ゼミ生のそれぞれが、何もできなかった4月からの成長を実感しながら、ディベートに参加していたと思います。我々第19期生全員が、小野ゼミ生のバーチャル背景に刻まれた、「智徳の模範」という言葉を背負うにふさわしいディベーターでした。



何かを熱く訴える著者，喜多村

結果ですが、当日行われた3試合のうち、最高得点で勝利を収めることができました。結果発表の時には、テンション高くリアクションと共に喜んだのは喜多村だけであり、喜多村以外の19期生は、ディベート中に破ったはずの殻にみんな戻り、やっぱり控えめに喜んでいました。

ディベートで全力を出し切った後は、オンラインですが、懇親会が開催されました。コロナ禍以前であれば、三田周辺の居酒屋にて、同じインカレディベートを戦った同士達と、大学を超えた懇親会ができたのですが…。オンライン開催のため、懇親会の盛り上がりについて、我々はかなり心配していたのですが、先生方や各ゼミ生の方々（特に千葉ゼミの皆様）、そして、小野ゼミ史上きってのセンスを持ち合わせる喜多村のおかげで、賑やかな会にすることができました。ちなみに喜多村は、懇親会中、人間とは思えない量の汗をかき、やや体調が悪くなりました。

最後になりますが、我々のディベート資料や、勝ち切るためのディベートにおける姿勢ついて、細部にわたったアドバイスをくださった小野先生を始め、様々な角度からの意見をくださった大学院生の皆様、お忙しい中模擬ディベートの相手を務めていただいた18期の先輩方に、感謝申し上げます。ありがとうございました。



4ゼミ合同スクリーンショット